

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第205号
1
20. .27

表紙

・誰もが暮らしやすい街づくりのための100円

P3

・活動報告 年々年始のおもてなし料理講習会／子育てひろば「ママカフェ」／エコロカフェ
・組合員紹介 生産者紹介

P2

・エスコープ大阪まつり2019報告

P4

・エスコープ大阪第6次中期計画
・エコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

誰もが暮らしやすい 街づくりのための100円

自分が住む地域のために何かしたいと思ってもなかなか自分だけでは動けないものです。エスコープ大阪が呼びかけ人となり設立された「街づくり夢基金」は、豊かな街づくりのために何かしたいという人を応援する基金です。基金に賛同した組合員から拠出された毎月1口100円を原資に、これまでにのべ174団体に約2,600万円の助成をおこなってきました。

今回は街づくり夢基金代表の阪野修さんと2018年の第16回助成事業で助成を受けた「スマイルMAPプロジェクト」の生谷直美さん、宮原由美さんにお話を伺いました。(聞き手:福祉担当常務理事 吉田 正美)



街づくり夢基金代表

阪野 修さん

スマイルMAPプロジェクト
(第16回助成事業助成団体 堺市堺区)

生谷 直美さん

宮原 由美さん

街づくり夢基金でできた 「スマイルMAP」

吉田 助成金で作成された「スマイルMAP」は、発達障害を持つお子さんとその家族が使いやすい口コミ情報をまとめたものですが、作ろうと思ったきっかけなどを教えてください。

生谷・宮原 私達は「NPO法人チャレンジ・クラブ」を立ち上げ、発達障害を持つ子ども向けのイベントや、その保護者に向けた講座やランチ会を開催したりして、家族みんなが笑顔になるように応援しています。みんなで集まった時に、よく「歯医者」のことが話題になります。健康なお子さんでも「歯医者は痛い、怖い」と思い、治療を受けさせるのが大変ですが、発達障害のお子さんのなかには、医師に嘔みついたり、暴れたり…と、それだけ病院によっては出入り禁止になることもあります。歯が痛くても治療を受けられないこともあります。でも、



スマイルMAP

中には発達障害を理解し、適切な対応をしてくれる病院もあります。そういう情報を共有できる仲間がいる人はいいけれど、それができない人にも情報を届けたいと思い、いくつかの「放課後デイサービス」(障がいのある子の学童保育)の人たちとプロジェクトを立ち上げ、「スマイルMAP」を作りました。

発達障害のある子どもの 周囲の状況

吉田 7年前に、チャレンジ・クラブの活動を始められた頃と比べて、周りの状況は変わってきていますか？

生谷・宮原 社会的に理解はすすんでいます。が、発達障害を持つ子どもへの周囲の反応は、立ち上げ時とあまり変わっていません。発達障害を持つ子どもは突然何をするかかわりません。一般的な常識通りの反応は正解、そこから外れてしまうのは不正解と判断されることが多く、障がいを持つ子どもたちは否定的にみられてしまいます。それは家族にとっても子育てを否定されているように感じ、社会との間に壁を作り、外に出ることができなくなってしまうということがあります。現在では国内における発達障害を持つ子どもの割合は約2割と言われています。しかし、支援学級の数は地域によって異なり、今でも障がいに対する偏見を持つ人が多い地域に住む人は障がいを持っていることを知られたくないと考え、支援学級の数も少ないという傾向にあります。障がい児というレッテルを貼る前に、行動にはそれぞれ理由があるので、なぜそのような行動を取ったのかを子どもたちに聞いてあげてほしいと思います。

街づくり夢基金だから

吉田 「街づくり夢基金」は他の基金とどう違うところがあるのでしょか？

阪野 街づくり夢基金は、豊かな街づくりのためにこれから何かを始めようとしている人を応援するための基金です。チャレンジ・クラブもそうでしたが、思いはあっても、どうやって形にしていっていいかわからないという人たちの申請が多いです。なので、申請書の書き方などの事前相談を受けることができるようにしています。また、第2次選考は公開選考会とし、申請団体にも他の申請団体のプレゼンを見てもらいます。そうすることで、新たな活動のヒントが見つかったり、ネットワークができていたりすることもあります。

生谷・宮原 他の助成金を受けたこともありますが、その時は申請書類を上手に書かないといけないということで悩みました。街づくり夢基金は、事前相談でいろいろ質問してもらったことで、自分たちの考えをまとめることができ、申請書類作成だけでなく、今後の活動を整理することができました。家族同士がつながり、障がいを持っていることを隠さなくてもいいような環境を作って、家庭の中に閉じこもっている家族を外に連れ出したいと考えています。

吉田 誰もが暮らしやすい街とは、障がいの有無や性別、年齢など関係なく、一人ひとりを認め合うことができ、お互いにたすけ合うことができる街だと思います。街づくり夢基金を通じてつながった団体と連携して、そんな街づくりをすすめていきたいです。

エスコープ大阪まつり 2019

思いを行動に、笑顔につながる第一歩

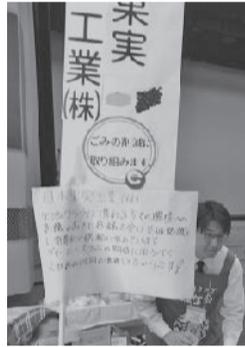


2019年11月3日(日)、堺市産業振興センター(堺市北区)のイベントホール・南広場にて、一年に一度、全国からおおぜいの生産者(今年は42団体)と、エスコープ大阪とつながりのあるワーカーズ・コレクティブや市民団体が集い、組合員、職員と一緒にまつりを盛り上げました。来場者数1,000名、新規加入20名を参加目標に取り組み、当日は652名(組合員445名・員外207名)が来場しました。当日の新規加入は5名でした。今年もたくさんの出会いと発見のある、楽しいまつりになりました。

今年のテーマは

「生活クラブ宣言(ブランド・ステイタメント)」と「10のThink&Act」

イベントホールには各生産者のブースを、消費、環境、福祉のエリアごとに配置し、生産者名が書かれたのぼりを設置しました。のぼりには今年のテーマである「10のThink&Act」からそのブースに最もふさわしいことばを組合員が選びました。「10のThink&Act」とは生活クラブに関わるすべての人びとの行動原則です。私たち組合員はこの行動原則に沿って活動し、持続可能な社会をめざしています。まつりでも同じように消費材を通して何を伝えたいのかを明確にし、来場者にアピールしました。



こんなことありました！

まつり開催に向けては、毎年組合員の担当者が生産者と何度か電話で打ち合わせをしますが、当日の現場で「こういうことをするんやったんや」と驚くことがあったり、想定外のハプニングが起こることもちらほらあります。

「みえぎよれん販売株」からは「最近の子ども達はこのまをする機会はありませんだろから、ごますり体験をしてみたいです」と聞いていました。当日、みえぎよれん販売のブース前を通ると親子がうれしそうに何かを持ち帰っています。のぞいてみるとごますり体験ですったごまをケースに入れてもらって、かわいいネックストラップにしてプレゼントされていました。ケースは200個用意していたのですがあつという間になくなったそうです。



また「長野森林組合」(鬼無里)では『えのき茸茶漬』を使った2升分の炊き込みご飯の試食を予定していたので、2升炊きの炊飯器で炊いたら、大失敗。待てど暮らせどいつこうに炊き上がらず、水分の多い炊き込みご飯になってしまいました。どうしようかと考えているうちに、来場者が試食を求めて並び始めました。事情を説明して少し試食してもらおうと「おいしい」「やわらかくてかえて食べやすい」などの感想があり、「レンジちょうだい」と言われる方もいました。心配しましたが、用意した炊き込みご飯2升は空っぽになりました。



「マルハニチロ株」のブースでは、びっくりしている親子がいました。聞いてみると、「おさかなソーセージ」の試食方法がとてもめずらしいとのこと。薄くスライスして電子レンジでチンして「おさかなソーセージチップス」にしてみました。おいしくて新しい発見をされた来場者の満足な顔がたくさん見られました。

生産者どうしも交流できた「ラボ企画」

今年のまつりの特徴のひとつに、生産者どうしのコラボ企画がありました。「朝日製パン(株)」の『バターロールパン』に「(株)ウインナークラブ」の『あらびきウインナー』をはさみ、「コーミ(株)」の『トマトケチャップ』で味付けした「ホットドックコラボ」や、「王隠堂農園」の『梅干し』と「J.A.グリーン近江」の『竜おうみ米』で「ごはんのおともコラボ」、「丸菱製麺」の『年越しそば』に「こめや食品(株)」の『かまぼこ』をのせた「年越しそばコラボ」。「中井製茶」の試飲とあわせて「岩手阿部製粉(株)」の和菓子をおすすめしました。「(有)大矢商店」の『生芋こんにゃく』に「(有)マルモ青木味噌醤油醸造場」のお味噌をつけた「みそ田楽コラボ」まで。多彩なコラボ企画で盛り上がりしました。



大矢商店の大矢浩二さんからは「生産者が協力して取り組むこのような企画は、生産者間の交流にもなりやすい機会でした。また他の消費材とのコラボもしてみたいです」と感想をいただきました。

今年初参加の生産者

(有)やさか共同農場

準備の時から「思いっきりアピールしたい」と話していた通り、全力で遺伝子組み換えでない国産大豆の「白味噌」をアピールしました。



長野森林組合 (鬼無里)

当日のハプニングにも負けず消費材をアピールしました。

『えのき茸茶漬』の炊き込みご飯レシピ⇒洗った米3合、えのき茸茶漬1瓶、まぐろ油漬缶1缶を炊飯器に入れ、水の分量を少し控えめに炊きます。



今年もまつりを開催し、エスコープ大阪のことをまだよく知らない人や、もっと知りたい人たちに向けて、生産者と一緒に消費材や様々な取り組みのアピールをして仲間を増やすことができました。みんなが「思いを行動に、笑顔につながる第一歩」を踏み出す後押しになればと思います。



第8回 理事会報告 <12月11日>

【10月度決算報告】

- 供給高 1億8,013万円(前年同月比90.5%)
- 組合員数 19,556名(前月比+68)
- 一人あたりの出資金 80,462円

【11月の放射能検査結果】

11月は連合消費材772検体、エスコープ大阪独自の消費材2検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①2020年度エスコープ大阪方針案
- ②温州みかんシーズン予約取り組みまとめ
- ③エコログループの運用について

【報告承認事項】

- ①緊急署名『「有機JAS」に「ゲノム編集」などの遺伝子操作を認めるな!』への団体署名

エスコープ大阪設立50周年 ロゴマークが決定!

2020年度に設立50周年を迎えるエスコープ大阪を盛り上げるシンボルとしてロゴマークを組合員募集したところ、34件の応募がありました。理事会での厳正なる審査の結果、**内島麻衣さん**のロゴマークデザインに決定しました。

50周年の広報活動やお祝いの企画で登場しますので、おたのしみに!

エコロ制度 12月度報告

加入者数 1,305名

給付状況	件数
組合員活動を支えるためのケア	2件
組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	2件
加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
加入者本人の産前産後のケア	0件
長期に留守をする時のケア	0件
リフレッシュのためのケア	0件
儀式・行事に伴うケア	1件
高齢の加入者をサポートするケア	3件

エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
2月19日(水) 10~12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
2月18日(火) 10~12時	さつき野東集会所(南河内地域)
2月13日(木) 10~12時	泉佐野市立生涯学習センター (泉州地域)
2月25日(火) 10~12時	和泉市コミュニティーセンター (泉州地域)
2月13日(木) 10~12時	ファインプラザ大阪(泉北NT地域)

*開催時間内であればいつでも、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*参加費100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

4面の記事を編集しながら、理事をしていた2009~2010年にハム・ソーセージの開発プロジェクトに参加したことを思い出していました。原料から味はもちろん、製造ロットや価格など決めていく中で、食べるため、継続するために消費する数が必要であること、消費する責任とは何かを考え気づかせてもらいました。開発後の利用推進活動も大変でしたがとても充実し楽しい活動でした。(O)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基礎づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は、中期計画の実行方針である「食への取り組みをさらに強化します」という方針の中から、「生産する消費者」であり「主体者」であることがより実感できる「消費材開発」についてお伝えします。



エスコープ大阪 第6次中期計画

組合員の主体的参加で豚肉加工品を開発します!

生活クラブ関西の消費材開発は、関西運営委員会で、関西6生協で取り進むことでの供給計画を確認し、協議・決定しています。2019年11月度の関西運営委員会でエスコープ大阪が委任され開

発することを決定しました。エスコープ大阪で共同購入できる消費材は当たり前のようにカタクグヤチラシに並んでいます。当たり前にあるものは何ひとつありません。これまでと、今のエスコープ大阪に関わる人が、それぞれの役割でつないできたものばかりです。私たちは「生産する消費者」として世界・社会の問題から家族への想いまでを消費材としてカタチにしてきました。

この開発を通じて、組合員活動の盛り上がりにもなることを期待しています。12月の消費委員会は、現在取り組んでいる消費材のラインナップを再確認し、市販ではどんな豚肉加工品があるのか探

発することを決定しました。エスコープ大阪の組合員が積極的に開発に参加し、多くの組合員が利用したいと思えるハム・ソーセージ類を提案していきます。取り組みのスタートとして昨年は、11月の消費委員会でウインナークラブの豚肉について自主学習会をおこないました。ウインナークラブ(南井養豚センター)の豚が健康に育つさまざまなこだわりや、一般的にハム・ソーセージ類に使われている食品添加物のこと、栄養面の学習をしました。また、あらためて私たちの取り組みの歴史のことにも触れ、ウインナークラブをつくり、共に安心して食べられる豚肉をつくってきた組合員の思いは続いていることを実感できました。

消費担当常務理事 梶川愛

今年徳島県にあるウインナークラブを訪問し、実際に豚肉加工品を作っている現場を見学し、プロからの意見を聞き、組合員が主体的に開発するにあたり、生産者の視点も交えて打ち合わせをする予定です。組合員のニーズを探り、多くの組合員に愛される持続可能で安定して供給できる消費材をめざします。デビューは2020年10月を予定しておりエスコープ大阪の組合員に広く利用してもらいたいです。

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

203号4面「もうすぐ50歳」を読んで

杉本さん

結婚1年目(1971年4月)で三原台団地に当り、期待いっぱいいで入居しました。入居と同時にエスコープ大阪(当時は泉北生協)が露店を出していたように思います。当時は商品も少なく、野菜、果物は決められた場所で売られていたと思います。青空市というような感じです。同じ団地の方にいろいろ教えてもらって組合員になりました。その後、催し物や生産地訪問なども経験しました。

203号3面「生産者コラボ企画」を読んで

紙面モニター Aさん

企画の当日に「今までにないほど」多くの加入者があったと報告されており、市販品と消費材のお菓子の「食べ比べ」など、子育て中の方にうまくアピールする内容だったのだなと思いました。今後も企画を続けてほしいです。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはXで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
205号(2020.1.27)

●お名前

●班名